

平成 28 年度第 1 回松原市民図書館協議会会議録

日時 平成 28 年 7 月 14 日 (木) 15:30~16:30
場所 松原市民図書館 集会室
出席者 図書館協議会委員 8 名
藤野委員 (会長) 永田委員 石田委員 長野委員 砂山委員 内田委員
白石委員 田崎委員
事務局 5 名 手束館長 宮本参事 河田補佐 下山 川崎

<あいさつ>

この 4 月より図書館長となりました、手束です。さて、図書館というのは様々な役割があります。数例あげさせていただくと、日常生活又は仕事のために必要な情報・知識を得るために使うこと。関心のある分野について学習すること。3 点目として子どもたちについては読書習慣を養い、本を読む楽しさを知り、想像力を豊かにすることなどがあげられます。3 点目については今回の議題の一つである学校と図書館との連携についても関連します。特に子どもたちの読書習慣を養うことについては、家庭・地域・図書館・学校などが綿密に連携し、相互に協力することで、活性化されると考えております。子どもたちが読書習慣を身につけるまでの間は、子どもたちの興味や関心を尊重しながら、それぞれが担うべき役割を十分に果たし、読書習慣を身につけた後は、子どもたちの成長に従い、読書できるよう協力体制を整えていく必要があると思います。多方面からのご意見をいただき、今日の図書館協議会を議論の場としていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

この 4 月から人事異動に伴いまして人員体制が変更されています。右に座っているのが参事としてこの 4 月からきました宮本です。左にいるのは補佐として、3 年ぶりに図書館に帰ってきました、河田です。書記として川崎。今日の案件、学校連携担当の下山も参加しています。以上です。

案件 1、平成 28 年度予算について

(事務局 補佐)

図書館の事業ごとに 28 年度の予算額とその内訳を書いています。まず、市民図書館管理運営事業。これは図書館の施設面の維持管理と運営にかかる経費、図書館事業のほとんどがここについています。額としては、28 年度は 96,521,000 円。昨年に比べ 300 万円ほど上がっています。次は読書活動推進事業。図書館は本を貸したり借りたりするだけでなく、文化事業も取り組んでいまして、おはなしよみきかせの講座・古典文学講座をしています。それにかかる経費、主に講師の方への謝礼金で、27 万 3000 円です。昨年と比べると 5 万円ほど少なくなっています。続いて障害者支援事業。主に視覚に障害がある方に対し、録音図書を作成する。それを聞いていただくことで、本の内容を知ってもらう、というサービスに取り組んでいます。28 年度は 32 万 9000 円。昨年度と比べると、ほぼ横ばいです。

次に、電子書籍サービス事業。平成 26 年 7 月から新しくサービスとして取り組んでいます。今年が 3 年目。これについては、自宅のパソコン・タブレット・スマートフォンも使って、図書館が購入した電子書籍を読むことができるというサービスです。経費としては 245

万円。昨年度と比べると、ほぼ横ばいです。

それから新図書館建設調査事業。内容としては、新図書館建設候補地の測量調査の委託です。金額は350万円。28年度の予算については以上です。

<質疑応答>

(藤野会長) 資料費はどこになりますか。

(事務局 補佐) 資料費は市民図書館管理運営事業の備品購入費です。資料というのは備品という扱いで1721万円、これが資料費ということになります。

(内田委員) 視覚障害者のホームリーディングサービスをしています。その時あめんぼテープライブラリーがいただくお金は何といたしますか。

(事務局 補佐) 障害者支援事業の中の報償費です。22万4000円の中に、資料の中ではさらに細かい内訳までは載せていませんが、朗読講習会等の謝礼金に含まれています。この中には、ボランティアグループの方が講師の方を招いて勉強会をされるその講師への謝礼金もありますし、今おっしゃったホームリーディングサービスの謝礼金も含まれています。

(藤野会長) 図書館は今、冬の時代と言われ、予算が減る傾向にある中で、27年度に比べると28年度の予算が増えています。何か理由がありますか。

(事務局 補佐) 管理運営事業は確かに300万増えています。

(事務局 館長) 人件費の関係で、非正規の方の分、アルバイトは変わっていませんが、嘱託の場合は賃金改定があり、少し割増しがあって、人件費の分がアップしています。何百万か上積みしています。図書費について、27・28年予算額は同等の金額になっています。主には人件費ベース。正規職員の分はこの中には含まれません。人事予算に入っています。

案件2、図書館と学校等の連携について

(事務局 下山)

学校との連携協力委員会の活動についてお話をさせていただきたいと思います。

小学1年生に対して、夏休み前7月頃に一年生向けの図書館の利用案内を作成、全校全一年生に配布をしています。小学3年生には、毎年図書館見学を行っています。授業に合わせ施設見学があるので、図書館見学の案内を送り、図書館の説明と館内の見学を実施しています。中学・高校生に関しては図書館利用促進のためのポスター・チラシを作成し、各学校に配布しています。中学2年生には職業体験があるので、その受け入れを行っています。その他、職業調べ、校区探検、聞き取り調査など少人数のグループの学習もありますが、それには依頼に応じて松原図書館だけでなく、各地域の図書館でも受け入れを行っています。それ以外に図書館報「かわちもめん」や「新着案内」を小・中・高の図書室担当先生やご希望のある学年、クラスに必要な枚数をお届けしています。

平成27年度小学3年生を対象に行っている図書館見学に関しては、訪れた学校の数は13校。全部で15校ですから殆どのところが出来ました。日程の都合等が合わなかった学校もあり、13校になりました。そのうち松原図書館で8校、その他の図書館に4校、また小学2年生の見学も1校ありました。職業体験の学習では、中学2年生を対象に図書館業務を知ってもらう

と同時に、「自分たちに役立つ図書館」との認識を持ってもらうことを目的として実施していますが、3校が体験に来ました。各校2日間、合計7名の生徒が図書館業務を体験しました。職業調べ・校区探検や総合学習の一環で書架の整理など、ボランティア体験もしてもらい、合計26名の児童・生徒が図書館を利用しています。

今年度は 以前から要望のあった調べ学習に役立つ本のリストの作成を進めています。

また、学校図書室と連携・協力し合う為に何かできないか、ということで、いくつかの図書室ボランティアの方・図書室担当の先生と意見交換をしています。その最初の取組みとして、先日2校の小学校ボランティアの方と図書室担当の先生にお話を伺いました。そんな中、私がお話をお聞きした学校では5～6年前から、退職された先生と保護者の方の計4名で図書室をサポートされ、週2回行っている図書の時間も担当し、本の紹介や読み聞かせ、読書感想文の指導などを行っていました。図書館の利用も活発にされていて、図書室には図書館から借りてきた本のコーナーも作られ、館報「かわちもめん」や「新着図書案内」も掲示していました。また、各学級には廊下に図書館から借りてきた本をブックトラックに乗せておき、自由に見られるようにしていました。

今後も学校との意見交換をし、図書室の充実のために図書館ができることを実践していくように進めています。報告は以上です。

<質疑応答>

(砂山委員)学校図書館ボランティアをやっています。各学校で何をやっているのか全然わからないので、できたら全体で交流会をしてもらえたらいいと思います。今聞かせていただいた学校では、本の紹介をされているということですが、司書の資格を持っていないボランティアの方がやっておられるのですか。

(事務局 下山)おひとりの方は元学校の先生で、司書の資格も持っておられます。ほか3名はPTAの方なので詳しいところはわかりません。

(事務局 参事)小学校中学校には図書ボランティアの方が必ずどなたかがいらっしゃいます。人数は1名の学校もあれば、PTAの方をいれて4・5名で活動している学校もあると聞いています。平成26年度の活動の中で多いと思われるのが、小学校では読み聞かせ。あとはお話し会。これをボランティアの方にやらせてもらっている。図書室の整理や学校図書室の開館に合わせて貸出のお手伝いもされておられます。また、今図書システムを導入されている学校がありますので、その導入のお手伝い、という活動もされています。中学校では主に図書室の整備、開室支援で図書室の環境整備、興味をもって来てもらえるような工夫がされている、とお聞きしています。

幼稚園や保育所の方も協力機関であると思いますが、今のところ幼稚園はボランティアの方が読み聞かせに行ってくださっている、とお聞きしています。保育所ではそういう活動がないので、是非やっていただきたいという声も上がっています。

あと、図書館のリサイクルブックを小中学校それと幼稚園・保育所、学童にお渡しする、ということもやっておりまして、今年度も6月に実施し、約3500冊の本を学校施設等にお渡しさせていただいた、ということもあります。以上です。

(石田委員)今、図書館と学校との連携について、色々と説明をしていただいたのですが、最初に館長から読書習慣をどうつけるのか、ということに関連して、各小学校中学校は朝読書と

いう形で取り組んでおります。そういった題材をやはりインターネットで検索しながら図書館から借りてくる、そういう子どももおりますし、また読書活動をする中で誰が何冊読んだというような読書を啓発するような自主的な活動もあります。あるいは自分が読んだ本でこんなことが面白い、ということクラスで発表したり書いてみたりとか、そういうこともやっていると聞いております。また、図書ボランティアの方が、新しくこんな本入ったよ、とポスターなり、啓発ビラを出しているというところもあり、その取組みで読書に親しむ習慣が段々増えてきている、と思います。そういった中で今日の資料、平均読書冊数をみると、やっぱり増えている、本市でもそういった状況がある。また図書館では、先ほども職場体験という形で、本が好きな子は図書館に興味を持ちますので、応募が多くジャンケンで決める場合も出てくるという状況です。図書館と学校との連携という形は日頃から松原市ではできている、という風に思います。

気になるのは、中学校の図書室は、クラブ活動があるので、夏休みとかは開きにくい。今話しに出ていた図書ボランティアの方が多く参加くだされば、もっと開室して図書室に親しむことができるのではないかと。学校はインターネットとかパソコンの設備がまだ不十分な所があります。図書館の予算の中に電子書籍サービスという事業がありますが、個人登録でないと見れない、学校で見られる状況もできたら、もっと読書に親しむ子どもたちも増えていくのではないかと、と思います。

(事務局 館長) 追加資料で不読率と読書の平均読書冊数、これは全国学校図書館協会と毎日新聞の共同で過去31年分、毎年5月の1ヶ月間でどういう状況かという資料があったので今回提供させていただきます。学校の朝読書というのは我々小さいころにはなかった。最近朝の十分間ほど、小学校ではほぼ実施、中学校でもやっていると聞いています。そういう取組みもあるので、読書冊数については増えてきていると思う。学校との連携と関係もありましたので、資料提供させていただきました。毎年こういうデータが発表されています。以上です。

(長野委員) 幼稚園は保育所もそうと思うが、毎日絵本を読むというのが日常になっている。各園たくさん絵本があるが、どんどん新しい楽しい絵本が出て、追いついていない。そんな中で図書館をもう少し利用できれば、と思いながら今日、聞かせていただいた。新しいシステムも入る、ということなので、「この本あるかな」とか調べて「あっ借りよ」とすぐできたらすごく嬉しいと思う。今日は砂山さんがいらっしゃいますが、おはなし会に来ていただいています。保護者の方にも月1回来ていただくのですが、保護者の方は園の本であったり、図書館で絵本を借りてきて、子どもたちに読んでくださるので、職員にとっても新しい絵本を知るいい機会になっている。どんどんこういった活動が広げられたら、と思っている。また新しい電子書籍とかはわかっていない部分もたくさんあるので、今年度しっかり聞かせていただいて、取り入れていけたら、と思っている。

(事務局 館長) 砂山さんの団体は、色々活動をされていますが、主に小学校ですね。学校名を言えたら言っていて、何校くらい行っておられますか。

(砂山委員) 私たちは松原子ども本の会といいます。それとは別に私は図書館にある勉強会にも入っていて、その勉強会から学校の方にお話し会に行ったりしています。私が行っているのは、松原幼稚園と松原小学校の図書館ボランティア。あと天美小学校と松原市外ですが松原市内におられた先生が行かれた保育園も行っています。私たち以外の勉強会の人は恵我南小学校・松原南小学校にそれぞれ行っておられます。

(事務局 館長) 先日ある勉強会さんがある小学校に2か月に1回程行ってる、というお話を聞きました。やはり幼稚園や小学校低学年の時に本に関わったり、本に触れる機会を作ることによって、中学校に行っても本に親しむ機会につながると思うので、幼年期の時に本に触れる、読み聞かせを何回となくやっていたらボランティアの方々は非常に大切な活動をされていると思います。読み聞かせは高学年ではあまりなく、低学年を対象にしている。まだ行けてない小学校があるのか、行けてない幼稚園があるのか、こういう活動は他校でやっているというのを各セクションで知っていただいて、状況を報告して議論していけたら、この会をきっかけに学校連携・幼稚園との連携というのが活性化されるのではないかと、思います。できれば幼稚園間で実際どんな状況かという議論を、今日は小学校の鈴木委員がいらっしゃいますが、小学校15校中そういう活動がない学校がどこにあるのか、ということを集約していただいて、議題としてこの協議会で取り上げて、そうすれば砂山さんは砂山さんで他のボランティア団体と繋がりがあるのでそういう機会の提供ができる、そういったことを今年度、できれば次回の議題にさせていただいたら、と思います。

(藤野会長) 学校との連携は、これから継続的なテーマになるので、今後も議論として取り上げていけるようにすれば、この協議会も実りあるものとなると思う。

(田崎委員) うちのNPO法人で、天美の商店街でコミュニティーニコという場所を持っています。4月から子ども未来室よりの受託で、「支援センター」をしていて、当初から「やんちゃま」には砂山さんにも何回か来てもらっておはなしの会をしてもらっています。「本はいいよね、絵本大事よね」ということで、ヘルパーも4月1日から始まっていますが、朝に1回夕方1回、日に2回読み聞かせを毎日しています。この間、大阪府から「支援センターでどれだけの絵本を読んでいるか」と聞かれ、朝と夕方やっているということをいいましたら、「ぜひ継続を」といわれました。自分たちスタッフの中で図書館の本の勉強を何回かさせてもらい、そのノウハウで朝と晩としているのですが、子どもたちも絵本がすごく好きで、けれど選び方を私たちはあまりわからないので、とりあえず色々なネットや関わる人等に聞いたりして毎月3冊購入しています。この間生協から「登録したら絵本をあげるよ」といわれたので、登録したら早速送ってくれ、毎月送ってくれるということです。色々なところでこういう機会があるのだなあ、と思いました。今、地域の子ども食堂をやっている関係で地域の小学校と関わりがあるので、子どもたちがより小さい子どもたちに絵本のよみかかせをしている時がある。すごくいいなと思っていて、今後提案しながら何か実現できたらいいな、と思っています。

案件3、その他

(藤野委員) 前回の情報提供ということで、図書館の指定管理導入状況について報告を。

(事務局 館長) 前回27年度の第2回図書館協議会で会長のほうから、指定管理は今どれだけ導入されているか、というご質問があったので、まず大阪府内の図書館指定管理実施施設の統計、これはホームページに載っている数字です。大阪府内でいうと、130館あって指定管理は16館、今年度結構指定管理を導入されたところがあります。泉佐野・和泉市は2011年から導入されているので違いますが、大阪狭山市も2007年から導入されていると。今年度からは東大阪と枚方、こういう状況で推移しています。裏面は日図協、日本図書館協会はほぼすべての公立図書館が加盟している団体で、そこが発行するマガジンでは、最新の6月1日

発行の801号では、市町村でいうと329館が導入。政令市で57館、特別区109館、合計500館程になっています。個別の内容として市の導入状況としては約12%、政令市については21.5%、特別区については47.6%。あくまでも情報提供で、松原市が今どうこうという議論の場ではありません。

<質疑応答>

(藤野会長) 東大阪市の指定管理の所は行きましたか。ここだけがTRC以外のところがやっているの、ちょっと興味があります。

(事務局 館長) こちらはここに書いているNTTデータ。システム会社です。ヒバリヤ書店というのはうちが取引している大阪屋、今は名前が変わっているがその系列だと思う。TRCよりは評点が高く、ヒバリヤ書店が取った、という話は聞いている。日本全国で8割ぐらい、統計はとっていませんがTRCのほうが多いです。大手で、出版もしている会社なので、TRCの指定管理というのはかなり増えている傾向があります。

(藤野会長) これはあくまで資料提供という話で、今すぐ何かという話ではありません。

(事務局 館長) その他でまた報告事項です。以前から休止中であった松原南図書館ですが、さる6月29日第1回定例会、我々は6月議会とよんでいます、そこで休止中の松原南図書館の廃止が可決されました。今後は図書館適正配置等の答申に基づき、中央に集約していくという流れになっています。松原南図書館につきましては、今後地域のコミュニティセンターとして活用していくということになります。コミュニティセンターとはどういう使い方かという、新町公民館が行っているのは、公民館ですが自習室の開放事業を行ったり地域の防災施設・地域の会議室という使い方、南図書館は町会が会議室をもっていないため、定期的に会議のために使っていたこともあり、今後そういう使い方になります。担当部局は同じ市民協働部ですが、いきがい学習課というところが担っていきます。報告は以上です。

(委員長) 他になければ次回の開催日程について、事務局。

(事務局 館長) 今のところまだ決まっていませんが秋ぐらいを目安で考えています。

(委員長) 次回開催日程につきましては、また事務局より連絡がありますので、よろしくお願いいたします。それではこれもちまして、本日の図書館協議会を終了いたします。